

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

27 ホソバナデシコ

職藝学院

教授 渡邊 美保子

ホソバナデシコは、学名がダイアンサス・カルスシアノルムというヨーロッパ原産の宿根草です。日当たりの良い乾いた場所を好みます。その場所が気に入れば寿命の長い宿根草です。種から育てると花の大きさや草丈にばらつきがありますが、咲いた時の草丈は60~80 cm位です。6月中旬に茎の先に赤紫を帯びた濃いピンク色の小花を咲かせます(写真1)。



写真1 ホソバナデシコの花 6月中旬

ホソバナデシコは、5月になると地面から先のとがった細い葉をたくさん伸ばして、ハリネズミのような姿になります。しばらくするとこんもりとした葉の中から、真っ直ぐな細い茎を放射状に何本も出し始めます。二枚の細い葉は、茎を包み込むように向かい合っていますが、あまり目立ちません。5月下旬になると、茎のてっぺんにだけ赤紫色の蕾をいくつも付けます。天に向かって両手を広げているような2枚の細長い葉の付け根に、先のとがった蕾たちがギュッと詰め込まれています。蕾たちは一日ごとに、もりもりとふくらんでゆき、その姿はまるで剣岳のようになります。

6月初旬になると、一番早くふくらんだ蕾が開きます。直径2 cmほどの花は、5枚の花弁をもち、花弁の先にはぎざぎざした切れ込みがあります。雄しべの先の花粉は水色の粉をまぶしたようになりますが、数日後には花粉が消えて雄しべはパタンと倒

れるように花弁に寝そべります。花が一つ開くと、それを合図に隣の蕾もふくらんで花を咲かせてゆきます。そのため、細い茎の先は小花で混みあってきて頭でっちな姿になります。すると、最初に咲いた花が次のつぼみに席を譲るようにしぼんでゆきます。小花は、いっせいに咲くわけではありません。およそ1ヶ月かけて一つ、二つと小出しに咲いてゆきます。細い茎の先に四つも花が咲いていたなら、四葉のクローバーを見つけたぐらいの気持ちになります。毎日ながめていても、なかなか出会えないからです。

ホソバナデシコの茎は白い粉が吹いているように青みが加っているため、濃いピンクの花がとても引き立ちます。花茎がたくさん地面から立ちあがってくるようになるまでには、種から育てて3年位かかる宿根草ですが、株分けの必要はほとんどありません。茎の先に小花が咲き続けるので、まるで濃い桃色の油絵の具を付けた筆の先で、点々と描いたように咲きます。空中にふわふわ浮いているように見えますので、ホソバナデシコの花を浮かび上がらせる背景として、銀灰色の葉を茂らせるルーを隣に植栽すると良いでしょう(写真2)。



写真2 ホソバナデシコ(手前)、後ろはレモン色の花の咲くルー 6月中旬